

# 美術科学習指導案

## 1 題材名 心の色 一色鉛筆を使った表現—

### 2 題材について

学習指導要領でうたわれている「生きる力」の中には、思考力、判断力、表現力などを身に付け、新しい知識、技能を学習していこうとする力が含まれると考えられる。美術科では主に自分の想いを色や形で表す表現力を身に付けることが重要である。そこで、表現の基礎・基本を次のようにとらえた。「楽しく美術の活動に取り組むこと」、「自分なりの表現主題、目標をもつこと」、「想いにふさわしい表現方法を工夫すること」、「自分の作品に愛着をもち、大切にすること」。そのためには生徒にとって魅力的な題材を開発し、内発的な表現意欲を高める支援が必要である。そして、言語活動を学習過程のなかに意図的に取り入れることからさらなる意欲の高まりをねらっていききたい。

篆刻の鈕の形を作る学習の過程で主題を「このような作品にしたい」と文章で明確にしてから、アイディアスケッチをし、石を削っていた生徒と、石を見た後、文章には表さないで、形のアイディアスケッチから始めた生徒がいた。美術の授業で作品を制作する時に、「こんな作品にしよう」とはじめに言葉で気持ちを整理してから色や形で表現する生徒もいれば、制作する中で、素材に触れながら自分の気持ちを見つけたり、考えながら表現したりする生徒もいる。実際に言語を使って表現意図を明確にする制作と素材から受ける色や形や手触りなどの印象を言語ととらえる制作はどちらも言語活動を通しての豊かな表現活動であり、やがては自分を表現する手立てとなると考える。

本題材「心の色」は、生徒にとって身近な色鉛筆を用い、布を使って少しずつ色を重ねていくことで様々な色彩を表現し、個々の生徒がもつ細やかな感情を作品に表現する題材である。布でこすりつけた色鉛筆が次第に紙面を埋めていく工程が面白く、取りかかりやすい題材である。はじめに「こんな作品にしたい」と主題を言葉で表現する場を設けることから、明確な目標をもって意欲的に取り組み、表現力を高めさせたい。また、作業を進めながら、素材を味わう中で主題を深めさせ、豊かな表現力を身に付けさせたい。授業の最後に互いの作品をもとに、作品から受ける印象を伝え、理解する場面を設定して、今後自分の気持ちを色や形で表現する場面に生かしたいと考えている。

「心の色は何色？」と問われた時の生徒の反応としては「心の色って何？」と考えたり、し、「青とか赤とか単純に表せない」と思うことがあるかもしれない。質問の意味は分かっているが、「分からない。」と答える生徒も多いことも予想される。今までは聞かれたことに素直に反応していた生徒たちも周りの友達や自分に目が向き、思うようにならないことや自分に対して否定的に考える傾向があるように感じられる。自分がためこんでいる思いを整理し、表現する手段の一つとして、身近な道具を使った本題材を知らせていきたい。自分の気持ちを表現することが素直にできるように、今回は「〇〇の時の色」をテーマにして、「今の自分」から少し離れた立場で考えるようにした。制作に楽しく取り組み、気持ちを表現する喜びを味わわせたいと考えている。

### 3 題材の目標

- (1) 色鉛筆を使った制作で表現したい気持ちの色を構想したり、工夫を加えて表現を深めたりすることができる。【発想や構想の能力】
- (2) 完成作品から色のもつ美しさ、面白さや、作品に込めた思いを感じ取り、味わうことができる。【鑑賞の能力】

#### 4 指導計画（総時数 1時間）

場面にあった気持ちを色鉛筆で表現し、鑑賞する。・・・・・・・・・・1時間

#### 5 本時の指導

##### (1) 本時の目標

- ① 色鉛筆を使った制作で表現したい気持ちの色を構想したり、工夫を加えて表現を深めたりすることができる。 【発想や構想の能力】

##### (2) 本時の展開

過程	学習内容と活動活動 (下線は主たる言語活動)	指や導支援の手立て (○教師の支援、◇評価)
導入 5分	○色から連想される言葉を考える。 ・青・海、空、冷たい、絵の具。 ・赤・太陽、りんご、熱い。  ○本時の目標を確認する。	○色画用紙を黒板に貼り、考えさせる。気持ちを表す言葉がでてくるまで、質問する。 ○色で感情が表せることを確認する。形の違いでも表せることについても触れる。 ○学習の目標を確認させる。
学習目標：心の色 —「○○の時」の気持ちを色鉛筆で表そう—		
展開 35分	○本時の流れを知る。  ○制作の手順について知る。色鉛筆、布、画用紙の使い方を知る。	○ワークシートを配り、本時の流れを説明する。 ・「○○の時」というテーマを決めてから制作をすること。 ・後で同じ班の生徒と見合い、作品の印象を伝え合うこと。
展開	○ワークシートに、「○○の時」と気持ちを言葉で記入する。 ・「悩んでいる時」 もやもやした気持ち ・「好きな曲をきいている時」 楽しい気持ち わくわくした気持ち ・「部活をしている時」 頑張るぞという気持ち 穏やかな気持ち	○道具を配り、制作の仕方について説明する。 ・①色鉛筆を使って画用紙を塗る。 ②油を含ませた布で画用紙の色鉛筆をこすりとり、マーメイド紙にこすりつける。使う色、色の重ね方は自由である。 ③表現の内容によっては、マスキングテープや厚紙を使って、ステンシルのような表現をしたり、直接色鉛筆でマーメイド紙に加筆する。 ④マスキングテープをはがす。  ○「○○の時」の場面を考えやすいように、例をあげて助言する。 ・一日のうちのどの時間か ・行事や誕生日など一年のうちのどの時間か ・どのような活動をしている時か（楽しさ60%、緊張40%）など ○言葉を記入したワークシートは他の人には見せないように伝える。

	<p>○色の性質や塗り方を工夫して、自分の気持ちを紙に表現する。</p>	<p>◇表現したい気持ちの色を構想しているか。 【発想や構想の能力】 (ワークシート)</p> <p>○色がはっきり紙につくように、色鉛筆を濃く画用紙に塗ること、油の量が多すぎたり、少なすぎたりしていないか確認しながら机間指導する。</p> <p>○思うような作品になっていない場合は、新たにマーメイド紙を渡し、制作させ、試行錯誤させる。</p> <p>◇表現したい気持ちの色を構想したり、工夫を加えたりして表現を深めているか。 【発想や構想の能力】 (作品)</p>
<p>ま と め  10 分</p>	<p>○班の中でお互いの作品を鑑賞し、どんな気持ちを表したのか推測し合う。 ・楽しい、寂しい、うれしい、はじけた 暗い、わくわくした気持ち。</p> <p>○授業の感想をワークシートに記入し、発表する。</p> <p>○片づけをする。</p>	<p>○じっくり考えられるよう、ワークシートは見せないで、画面から受ける印象を話し合うよう指示する。</p> <p>○他の人から見た印象と自分の印象の一致や相違に気付かせる。</p> <p>◇完成作品から色のもつ性質、面白さや、作品に込めた思いを、感じ取り味わっているか。 【鑑賞の能力】(活動観察)</p> <p>○制作した生徒の意図した気持ちと他の班員からの印象の一致や相違についてワークシートに記述している生徒を指名し、発表させる。</p> <p>○班で仕事分担し、速やかに片づけさせる。</p>

(3) 本時の評価

① 表現したい気持ちの色を構想したり、工夫を加えて表現を深めることができたか。

【発想や構想の能力】